

室町時代の吉田キャンパス

坂本村の起源

江戸時代にはすでに存在していた坂本村。吉田キャンパス北部域における数次に及ぶ発掘調査成果により、成立時の坂本村の様子が徐々に明らかとなっていました。

大学本部 2号館の発掘調査

●調査面積 約 800 m² ●調査期間 昭和 54 年 9 月 19 日～11 月 20 日 ●確認された遺構 弥生時代：土壙落し穴・溝・河川跡

室町時代：掘立柱建物跡・溝・井戸・墓

大学本部事務棟は、姫山（標高約 200m）から延びる丘陵が西に向かい舌状に張り出す台地上に立地しています。この台地は生活に適した環境であったようで、大学会館や第 2 学生食堂敷地を含めた台地の広範囲において、弥生時代の貯蔵穴、古墳時代の竪穴住居跡、井戸などが確認されています。

昭和 54 年（1979）に実施された大学本部事務棟 2 号館の発掘調査では、周囲を溝で区画した屋敷跡が確認されました。区画溝の規模は南辺が 21m、東辺が 13m 以上、幅 0.7 ~ 1m であり、その大きさから集落の中心的な家屋と推定されています。それを裏付けるように、区画内には井戸や墓も検出されています。また、区画内に多数の柱穴が検出されていることから、同一場所に何度も家屋が建て替えられたと考えられます。

この屋敷地の年代に関しては、井戸や溝から出土した遺物により、遅くとも室町時代の 15 世紀前半には成立し、江戸時代後半期まで存続したものと推測されます。

大学会館の発掘調査

●調査面積 約 2000 m²

●調査期間 昭和 58 年 9 月 1 日～12 月 24 日

●確認された遺構 繩文時代：落とし穴

古墳時代：井戸

平安時代：井戸

室町時代：井戸・柱穴群

大学会館は大学本部の東に隣接し、台地のさらに高所にあたる位置に立地します。大学会館敷地の調査では、調査区の東側を中心に多数の柱穴が確認されました。出土資料の詳細な検討を行っていないため正確な時期決定は控えますが、北に隣接する O-HARA（山口大学就職支援施設）建設に伴う発掘調査成果から見て、室町時代に集落が存在したものと推測されます。



大学本部 2 号館敷地で発見された屋敷地内の井戸
(東から)



大学本部 2 号館敷地で発見された小児の墓
(北東から)